

救急の現況

令和7年

岐阜市消防本部

当消防本部は、平成 30 年 4 月 1 日から 4 市 1 町において消防広域化の運用を開始しました。

この現況の平成 30 年のデータについては、広域化前の各消防本部の数値を含みます。また、平成 29 年以前のデータについては、広域化前の岐阜市消防本部の数値となります。

～平成 29 年度までの管轄地域～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市

山県市消防本部 山県市

本巣消防事務組合消防本部 本巣市・北方町

～平成 30 年度から～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市・山県市・本巣市・北方町

～令和 6 年 4 月 1 日から～

本部（デイトム）救急隊運用開始

～令和 6 年 10 月 1 日から～

救急安心センターぎふ#7119 の運用を岐阜県に引継ぎ

救急の概況（令和7年）

□救急出場件数 29,712 件、搬送人員 27,719 人

令和7年の救急出場件数は29,712件、搬送人員は27,719人であった。

1日平均の出場件数は、81.4件で18分に1件の割合で救急車が出場し、当消防本部管内の住民19人に1人が救急車を利用したことになる。

事故種別ごとの救急出場件数は、急病19,100件、一般負傷5,210件、転院搬送2,100件の順となっており、特に急病は全出場件数の64.3%を占めている。

□心肺停止傷病者への救命処置について

救急隊員が救命処置をした心肺停止傷病者566人のうち、脈拍と呼吸が回復し1ヵ月生存した傷病者は32人、そのうち社会復帰した傷病者は20人であった。

主な救命処置として、除細動を43人、気管内チューブによる気道確保（ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管含む）を11人、薬剤投与（アドレナリン投与）を101人に実施した。

□救急救命士の養成等について

令和7年は、7人の救急救命士が運用を開始した。（採用時救急救命士資格保持者1人、救急救命東京研修所派遣養成者5人、名古屋市救急救命研修所派遣養成者1人）

また、気管内チューブによる気道確保可能な救急救命士を4人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管可能な救急救命士を5人、薬剤投与が可能な救急救命士を7人、血糖測定及び低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液（以下「新処置」という）が可能な救急救命士を8人養成した。

□救急隊員の教育・訓練の実施について

救急救命士を含む救急隊員の知識・技術の資質向上を図るために、第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会、第28回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会等に参加した。

また、救急救命士に必要な病院実習は、計6箇所の医療機関で実施している。

□応急手当の普及啓発活動について

救急車が現場に到着するまでの間に、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当が適切に実施されることで、大きな救命効果が期待できる。このため、住民、各種事業所及び各種団体を対象に救命講習を実施し、応急手当の普及啓発を図っている。

また、広く応急手当の普及啓発を推進するため、救急講習の指導ができる応急手当普及員を養成し、現在169人の応急手当普及員を認定している。令和7年は応急手当普及員による救命講習を55回実施し、541人が受講した。

□救急業務の推進について

救急活動の効率的な遂行を図るため、学識経験者、公募による住民代表者、岐阜市医師会及び医療機関の医師で構成する岐阜市救急業務対策協議会を開催した。

□救急業務体験研修について

救急医療の重要性を認識し、救急業務の理解を深めた人材の育成を図ることを目的に、岐阜大学医学部及び岐阜市民病院と協定を締結し、医学生、研修医及び看護師を対象とした救急業務体験研修を実施している。

一方で、救急救命士を目指す専門学校生の救急車同乗実習を受け入れ、次世代の人材育成と救急体制の持続的な強化に努めている。

□救急安心センターぎふ#7119について

令和3年10月1日から運用を開始した救急安心センターぎふ#7119事業は、令和6年10月1日から岐阜県健康福祉部医療整備課に引き継ぎ、岐阜県内全域で運用している。この事業は、住民が急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのかなど迷った際の相談窓口として、看護師等の医療従事者から電話でアドバイスを受けることができる。

令和7年の消防本部管内における相談実績は、救急相談が3,323件、病院案内が6,699件、その他が2,380件の計12,420件であった。

□本部救急隊（デイトム救急隊）の運用について

令和6年4月1日から増加する救急需要の対策として、平日の昼間に活動するデイトム救急隊として運用している。

救急需要が増加する平日昼間に、岐阜市中心部の中消防署を2台体制とすることで現場到着時間の短縮を図る。また、救急隊の労務負担を軽減し、活動時間の平準化を目指す。

目 次

第1 救急業務実施体制の現況

救急業務実施体制	1
----------	---

第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況	2~4
2 救急隊別出場状況	5
3 事故種別出場件数及び搬送人員	6・7
4 年齢区分別事故種別搬送人員	8
5 月別1日平均及び曜日別出場件数	9
6 時刻別事故種別出場件数	10
7 現場到着所要時間別出場件数	11
8 傷病者の収容所要時間	12
9 診療科目別搬送人員	13
10 傷病程度別搬送人員	14・15
11 急病に係る搬送人員	16・17

第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置	18・19
2 ウツタイン様式調査	20

第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員	21
2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員	21
3 転送の状況	22

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況 ----- 23

2 救命講習の受講人員の推移 ----- 24

令和7年救急業務の年表 ----- 25～28

第1 救急業務実施体制の現況

1 救急業務実施体制

令和7年12月31日現在、1本部、6消防署、15分署で、救急隊数22隊、救急隊員数214人で編成している。

また、高度救急救命体制の核となる救急救命士の資格を有する人数は169人(うち女性4人)、高規格救急車28台を運用し、計画的に救急業務の高度化を推進している。

第1表 救急業務実施体制

◎ 令和7年12月31日現在の救急業務実施体制	
○ 消防署数	21 署(消防署6、分署15)
○ 管内面積	833.6 km ²
○ 管内人口	529,166 人
○ 救急業務実施署	1本部、21署(消防署6、分署15)
○ 救急隊数	22 隊
○ 救急隊員数	214 人
○ 救急車保有台数	28 台(うち6台は非常用救急車)

第2表 救急隊の配備と救急救命士等の現況

年	区分	救急隊数	救急隊員数	救急救命士数	救急救命士				救急科 修了者 (250時間)
					採用職員	気管挿管	ビデオ 喉頭鏡	薬剤投与	
平成13年		11	110	15					241
平成14年		11	110	18					255
平成15年		11	110	21					269
平成16年		11	110	24		1			274
平成17年		12	120	29	1	6			292
平成18年		13	130	34	1	9		3	270
平成19年		14	140	40	4	14		9	305
平成20年		15	150	49	5	19		18	338
平成21年		15	150	57	9	24		24	382
平成22年		15	150	64	12	29		36	399
平成23年		15	150	67	12	34	0	46	393
平成24年		15	150	67	10	38	1	53	381
平成25年		15	150	71	11	43	3	61	398
平成26年		15	150	75	12	48	6	67	392
平成27年		15	150	81	14	49	7	70	392
平成28年		15	150	87	14	56	9	76	408
平成29年		15	150	92	14	60	15	84	398
平成30年		21	210	137	17	88	28	121	486
令和元年		21	210	144	21	91	31	128	503
令和2年		21	210	150	24	92	37	133	507
令和3年		21	210	156	27	95	40	138	501
令和4年		21	210	161	28	98	47	147	494
令和5年		21	210	159	29	100	53	152	490
令和6年		22	214	165	33	101	57	155	485
令和7年		22	214	169	34	104	60	161	478

採用職員とは、岐阜市消防本部採用時に救急救命士の資格を有する職員

気管挿管は平成16年7月法制化

薬剤投与は平成18年4月法制化

ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管は平成23年8月付加

新処置(血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖投与、CPA前静脈路確保と輸液)は平成26年4月法制化

第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況

令和7年の救急業務実施状況は、出場件数29,712件、搬送人員27,719人で、前年に比べ出場件数600件（2.1%）、搬送人員620人（2.3%）増加した。

1日あたり平均81.4件、18分に1件の割合で救急隊が出場し、住民の19人に1人が救急隊によって搬送されたこととなる。

第3表 救急業務の実施状況

区分	年	令和7年 A	令和6年 B	対前年比	
				増減 A-B=C	増減率 C÷B
出場件数		29,712件	29,112件	600件	2.1%
医師搬送出場件数		6件	4件	2件	50.0%
資器材等搬送件数		0件	1件	-1件	-100.0%
傷病者搬送件数		27,514件	26,871件	643件	2.4%
傷病者不搬送件数		2,192件	2,236件	-44件	-2.0%
傷病者搬送人員		27,719人	27,099人	620人	2.3%
内訳	男性	13,970人	13,697人	273人	2.0%
	女性	13,749人	13,402人	347人	2.6%
1日平均出場件数		81.4件	79.5件	管内人口 令和7年12月31日現在 529,166人	
救急事故発生率		18分に1件	18分に1件		
救急自動車利用率		19人に1人	20人に1人		
人口1万人当たりの出場件数		561件	547件		

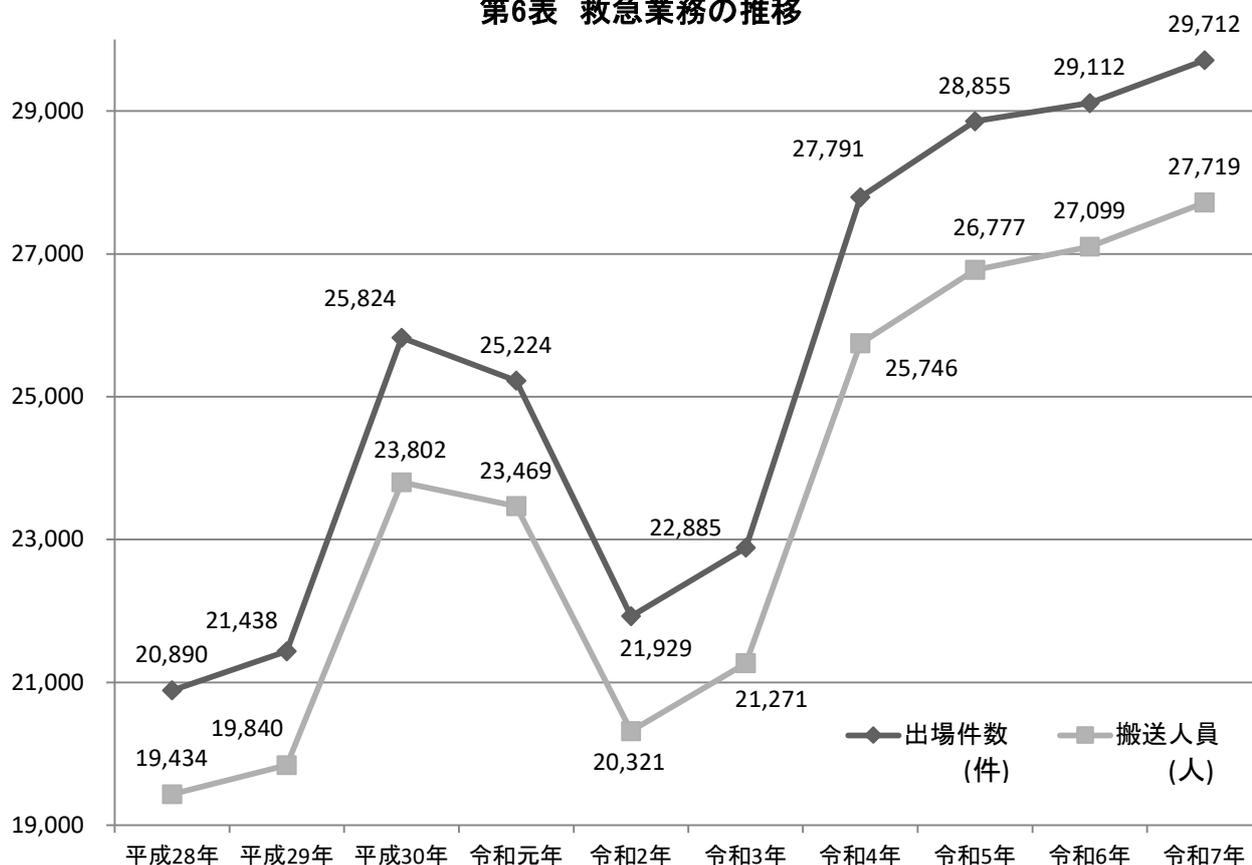
第4表 市・県・国における現況比較

	岐阜市消防本部	岐阜県 (令和6年)	全国 (令和6年)
救急車数（非常用含む）	28台	150台	6,727台
年間出場件数	29,712件	104,220件	7,718,380件
1日平均出場件数	81件	285件	21,088件
救急事故発生率	18分に1件	5.1分に1件	4.1秒に1件
人口比搬送率（救急車利用率）	19人に1人	20人に1人	19人に1人
現場到着平均所要時間	7.7分	8.8分	9.8分
病院収容平均所要時間	32.7分	36.6分	44.6分

第5表 救急業務の推移状況(過去10年)

年	救急出場件数			搬送人員数			人口1万人あたりの 出場数	消防本部 管内人口
	出場 件数	対前 年比	増減率	搬送 人員	対前 年比	増減率		
平成28年	20,890	521	2.6%	19,434	387	2.0%	447	466,919
平成29年	21,438	548	2.6%	19,840	406	2.1%	460	465,966
平成30年	25,824	4,386	20.5%	23,802	3,962	20.0%	474	544,977
令和元年	25,224	-600	-2.3%	23,469	-333	-1.4%	464	543,607
令和2年	21,929	-3,295	-13.1%	20,321	-3,148	-13.4%	405	541,318
令和3年	22,885	956	4.4%	21,271	950	4.7%	426	537,626
令和4年	27,791	4,906	21.4%	25,746	4,475	21.0%	519	535,700
令和5年	28,855	1,064	3.8%	26,777	1,031	4.0%	540	534,440
令和6年	29,112	257	0.9%	27,099	322	1.2%	547	531,886
令和7年	29,712	600	2.1%	27,719	620	2.3%	561	529,166

第6表 救急業務の推移



第7表 救急活動状況(事故別行政区域別)

行政区域 事故種別	合計			岐阜市			瑞穂市			山県市			本巣市			北方町			管轄外			
	7年	6年	増減	7年	6年	増減	7年	6年	増減	7年	6年	増減	7年	6年	増減	7年	6年	増減	7年	6年	増減	
合計	出場件数	29,712	29,112	600	23,512	22,926	586	2,237	2,319	-82	1,313	1,275	38	1,735	1,727	8	906	856	50	9	9	0
	搬送件数	27,514	26,871	643	21,731	21,071	660	2,103	2,168	-65	1,223	1,207	16	1,614	1,611	3	834	808	26	9	6	3
	搬送人員	27,719	27,099	620	21,888	21,248	640	2,117	2,186	-69	1,233	1,211	22	1,632	1,626	6	839	820	19	10	8	2
火災	出場件数	137	135	2	100	98	2	11	13	-2	8	13	-5	13	9	4	5	2	3	0	0	0
	搬送件数	18	22	-4	12	13	-1	0	3	-3	1	3	-2	4	3	1	1	0	1	0	0	0
	搬送人員	20	26	-6	13	16	-3	0	3	-3	1	4	-3	5	3	2	1	0	1	0	0	0
自然災害	出場件数	0	2	-2	0	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	1	-1	0	0	0	0	0	0
	搬送件数	0	2	-2	0	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	1	-1	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	2	-2	0	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	1	-1	0	0	0	0	0	0
水難事故	出場件数	26	38	-12	14	26	-12	4	1	3	4	4	0	4	5	-1	0	0	0	0	2	-2
	搬送件数	8	11	-3	3	5	-2	0	1	-1	2	3	-1	3	2	1	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	8	13	-5	3	5	-2	0	1	-1	2	5	-3	3	2	1	0	0	0	0	0	0
交通事故	出場件数	2,017	2,095	-78	1,547	1,597	-50	197	187	10	78	57	21	137	164	-27	56	87	-31	2	3	-1
	搬送件数	1,841	1,945	-104	1,403	1,483	-80	186	175	11	73	51	22	124	153	-29	53	81	-28	2	2	0
	搬送人員	1,999	2,118	-119	1,525	1,612	-87	195	191	4	78	52	26	141	168	-27	57	91	-34	3	4	-1
労働災害	出場件数	263	277	-14	188	198	-10	28	21	7	11	27	-16	23	24	-1	13	7	6	0	0	0
	搬送件数	253	275	-22	181	196	-15	28	21	7	11	27	-16	20	24	-4	13	7	6	0	0	0
	搬送人員	255	275	-20	182	196	-14	29	21	8	11	27	-16	20	24	-4	13	7	6	0	0	0
運動競技	出場件数	259	269	-10	190	213	-23	23	20	3	15	15	0	17	13	4	14	8	6	0	0	0
	搬送件数	255	265	-10	186	209	-23	23	20	3	15	15	0	17	13	4	14	8	6	0	0	0
	搬送人員	256	269	-13	187	213	-26	23	20	3	15	15	0	17	13	4	14	8	6	0	0	0
一般負傷	出場件数	5,210	5,036	174	4,099	3,944	155	387	380	7	234	237	-3	336	333	3	151	141	10	3	1	2
	搬送件数	4,973	4,796	177	3,911	3,749	162	379	365	14	227	234	-7	316	312	4	137	135	2	3	1	2
	搬送人員	4,990	4,809	181	3,923	3,760	163	379	367	12	232	234	-2	316	312	4	137	135	2	3	1	2
加害	出場件数	79	94	-15	63	84	-21	8	4	4	1	0	1	4	5	-1	3	1	2	0	0	0
	搬送件数	74	73	1	59	66	-7	8	4	4	1	0	1	4	3	1	2	0	2	0	0	0
	搬送人員	77	73	4	62	66	-4	8	4	4	1	0	1	4	3	1	2	0	2	0	0	0
自損行為	出場件数	231	239	-8	185	195	-10	16	19	-3	9	7	2	11	13	-2	10	5	5	0	0	0
	搬送件数	171	179	-8	139	148	-9	10	13	-3	6	5	1	8	9	-1	8	4	4	0	0	0
	搬送人員	171	179	-8	139	148	-9	10	13	-3	6	5	1	8	9	-1	8	4	4	0	0	0
急病	出場件数	19,100	18,696	404	15,024	14,612	412	1,489	1,587	-98	842	820	22	1,138	1,115	23	603	559	44	4	3	1
	搬送件数	17,825	17,353	472	13,953	13,462	491	1,410	1,504	-94	804	789	15	1,089	1,061	28	565	534	31	4	3	1
	搬送人員	17,847	17,385	462	13,970	13,492	478	1,414	1,504	-90	804	789	15	1,089	1,061	28	566	536	30	4	3	1
転院搬送	出場件数	2,100	1,959	141	1,888	1,748	140	59	62	-3	83	80	3	29	30	-1	41	39	2	0	0	0
	搬送件数	2,094	1,950	144	1,882	1,739	143	59	62	-3	83	80	3	29	30	-1	41	39	2	0	0	0
	搬送人員	2,094	1,950	144	1,882	1,739	143	59	62	-3	83	80	3	29	30	-1	41	39	2	0	0	0
その他	出場件数	290	272	18	214	210	4	15	25	-10	28	15	13	23	15	8	10	7	3	0	0	0
	搬送件数	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 救急隊別出場状況

最も多く出場しているのは中救急隊の2,573件（構成比8.7%）で1日平均7.0件、最も少ないのは根尾救急隊の108件（構成比0.4%）で1日平均0.3件となっている。

なお、救急救命士の搭乗は、29,712件で100%搭乗している。

第8表 救急隊別出場状況

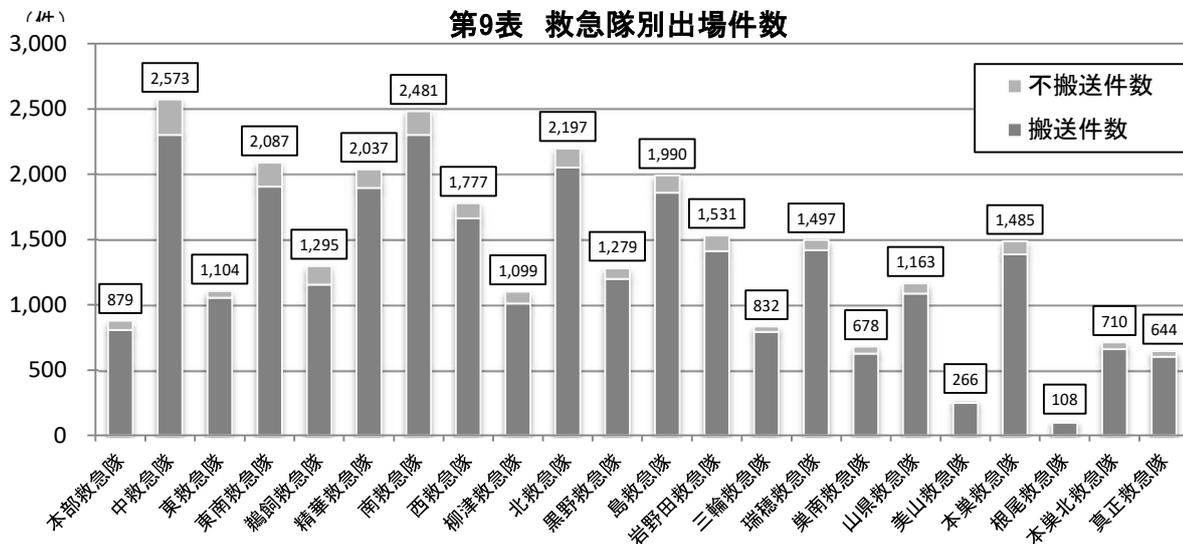
区分 出場隊	出場件数	構成比	前年 出場件数	増 減	1ヶ月 平均	1日平均	搬送人員	不搬送 件数	
本部救急隊	879 (0)	3.0%	657	222	73.3	3.6	810	72	
中消防署	中救急隊	2,573 (0)	8.7%	2,630	-57	214.4	7.0	2,312	272
	東救急隊	1,104 (0)	3.7%	1,121	-17	92.0	3.0	1,058	50
	東南救急隊	2,087 (0)	7.0%	2,038	49	173.9	5.7	1,912	182
	鵜飼救急隊	1,295 (0)	4.4%	1,247	48	107.9	3.5	1,165	140
	精華救急隊	2,037 (0)	6.9%	1,971	66	169.8	5.6	1,908	142
南消防署	南救急隊	2,481 (0)	8.4%	2,410	71	206.8	6.8	2,315	179
	西救急隊	1,777 (0)	6.0%	1,813	-36	148.1	4.9	1,681	114
	柳津救急隊	1,099 (0)	3.7%	1,094	5	91.6	3.0	1,023	90
北消防署	北救急隊	2,197 (0)	7.4%	2,111	86	183.1	6.0	2,064	147
	黒野救急隊	1,279 (0)	4.3%	1,266	13	106.6	3.5	1,201	81
	島救急隊	1,990 (0)	6.7%	1,908	82	165.8	5.5	1,880	131
	岩野田救急隊	1,531 (0)	5.2%	1,469	62	127.6	4.2	1,419	122
	三輪救急隊	832 (0)	2.8%	886	-54	69.3	2.3	799	42
瑞穂	瑞穂救急隊	1,497 (0)	5.0%	1,568	-71	124.8	4.1	1,426	78
	巢南救急隊	678 (0)	2.3%	686	-8	56.5	1.9	633	52
山県	山県救急隊	1,163 (0)	3.9%	1,075	88	96.9	3.2	1,096	78
	美山救急隊	266 (0)	0.9%	296	-30	22.2	0.7	249	18
本巢署	本巢救急隊	1,485 (0)	5.0%	1,387	98	123.8	4.1	1,399	99
	根尾救急隊	108 (0)	0.4%	120	-12	9.0	0.3	97	11
	本巢北救急隊	710 (0)	2.4%	733	-23	59.2	1.9	665	49
	真正救急隊	644 (0)	2.2%	626	18	53.7	1.8	607	43
全 体	29,712 (0)	100.0%	29,112	600	2,476.0	81.4	27,719	2,192	

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

出場件数の（ ）内は、救急救命士非搭乗件数

本部救急隊は平日のみ運用となるため、1日平均出場件数は、土日祝日を除く241日で計算

第9表 救急隊別出場件数



3 事故種別出場件数及び搬送人員

出場件数及び搬送人員を事故種別で見ると、急病、一般負傷、転院搬送の順となっている。救急出場件数は、急病、一般負傷、転院搬送で全体の88.9%を占めている。

第10表 事故種別出場件数及び搬送人員

事故種別	令和7年		令和6年		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病	19,100	64.3%	18,696	64.2%	404	2.2%
	17,847	64.4%	17,385	64.2%	462	2.7%
交通事故	2,017	6.8%	2,095	7.2%	-78	-3.7%
	1,999	7.2%	2,118	7.8%	-119	-5.6%
一般負傷	5,210	17.5%	5,036	17.3%	174	3.5%
	4,990	18.0%	4,809	17.7%	181	3.8%
加害	79	0.3%	94	0.3%	-15	-16.0%
	77	0.3%	73	0.3%	4	5.5%
労働災害	263	0.9%	277	1.0%	-14	-5.1%
	255	0.9%	275	1.0%	-20	-7.3%
自損行為	231	0.8%	239	0.8%	-8	-3.3%
	171	0.6%	179	0.7%	-8	-4.5%
運動競技	259	0.9%	269	0.9%	-10	-3.7%
	256	0.9%	269	1.0%	-13	-4.8%
火災	137	0.5%	135	0.5%	2	1.5%
	20	0.1%	26	0.1%	-6	-23.1%
水難事故	26	0.1%	38	0.1%	-12	-31.6%
	8	0.0%	13	0.0%	-5	-38.5%
自然災害	0	0.0%	2	0.0%	-2	-100.0%
	0	0.0%	2	0.0%	-2	-100.0%
その他	2,100	7.1%	1,959	6.7%	141	7.2%
	2,094	7.6%	1,950	7.2%	144	7.4%
その他	290	1.0%	272	0.9%	18	6.6%
	2	0.0%	0	0.0%	2	0.0%
計	29,712	100.0%	29,112	100.0%	600	2.1%
	27,719	100.0%	27,099	100.0%	620	2.3%

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第11表 事故種別搬送人員の推移

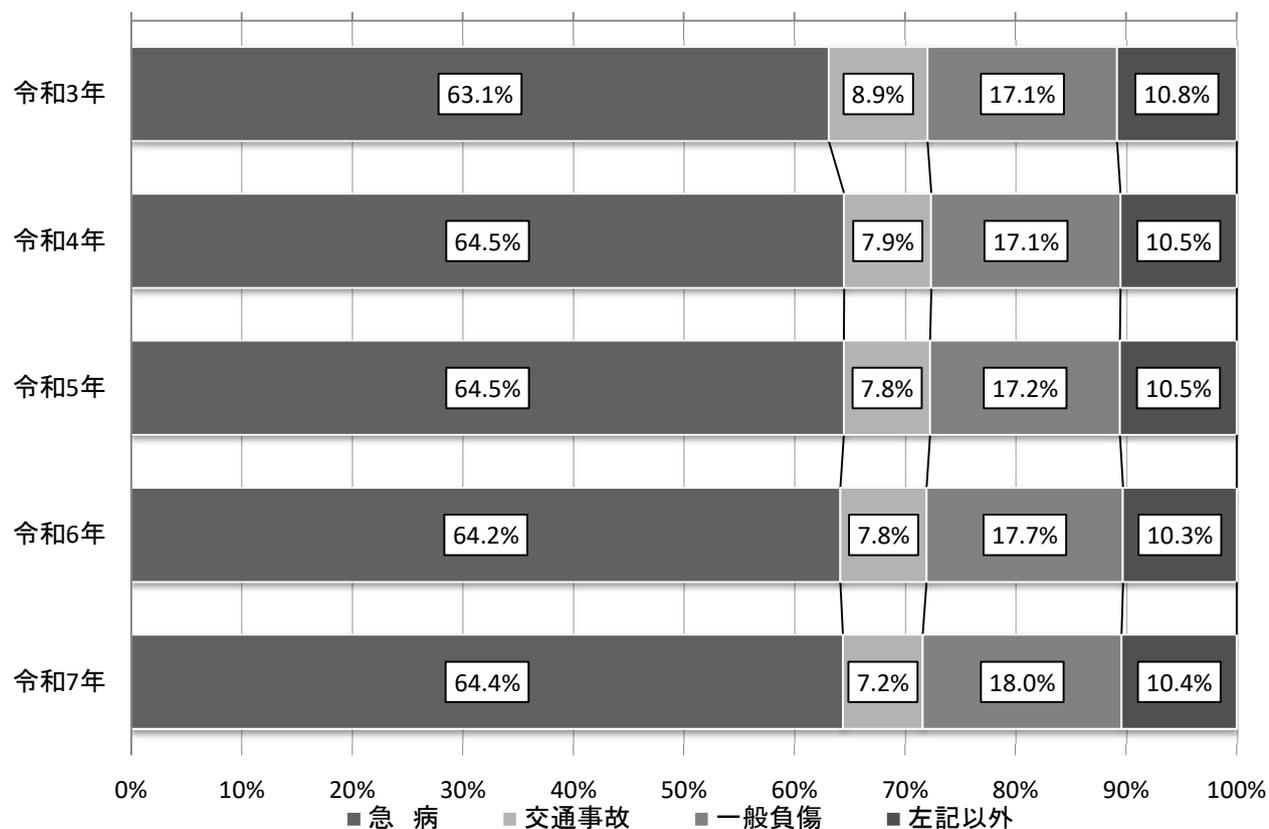
事故種別搬送人員の構成比は、急病、一般負傷の占める割合は増加し、交通事故は減少している。

年	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
令和3年	13,423 (63.1)	1,903 (8.9)	3,643 (17.1)	2,302 (10.8)	21,271 (100.0)
令和4年	16,602 (64.5)	2,030 (7.9)	4,413 (17.1)	2,701 (10.5)	25,746 (100.0)
令和5年	17,264 (64.5)	2,090 (7.8)	4,601 (17.2)	2,822 (10.5)	26,777 (100.0)
令和6年	17,385 (64.2)	2,118 (7.8)	4,809 (17.7)	2,787 (10.3)	27,099 (100.0)
令和7年	17,847 (64.4)	1,999 (7.2)	4,990 (18.0)	2,883 (10.4)	27,719 (100.0)

注) ()内は、年別構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第12表 事故種別搬送人員構成比の推移



4 年齢区分別事故種別搬送人員

全搬送人員に対する年齢区分別の搬送人員をみると、高齢者17,647人、成人7,951人の両者で全体の92.3%を占めている。年齢区分別事故種別の構成比は、急病は高齢者65.0%、交通事故は成人が54.8%を占めている。

第13表 年齢区分別事故種別搬送人員

年齢区分 \ 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
新生児	2 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.1)	4 (0.0)
乳幼児	781 (4.4)	50 (2.5)	235 (4.7)	28 (1.0)	1,094 (3.9)
少年	455 (2.5)	213 (10.7)	180 (3.6)	175 (6.1)	1,023 (3.7)
成人	5,010 (28.1)	1,095 (54.8)	821 (16.5)	1,025 (35.6)	7,951 (28.7)
高齢者	11,599 (65.0)	641 (32.1)	3,754 (75.2)	1,653 (57.3)	17,647 (63.7)
65歳から74歳	2,284 (12.8)	258 (12.9)	561 (11.2)	341 (11.8)	3,444 (12.4)
75歳から84歳	4,807 (26.9)	280 (14.0)	1,514 (30.3)	703 (24.4)	7,304 (26.4)
85歳以上	4,508 (25.3)	103 (5.2)	1,679 (33.6)	609 (21.1)	6,899 (24.9)
計	17,847 (100.0)	1,999 (100.0)	4,990 (100.0)	2,883 (100.0)	27,719 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・年齢区分の定義 (以下同じ)

新生児：生後28日未満の者

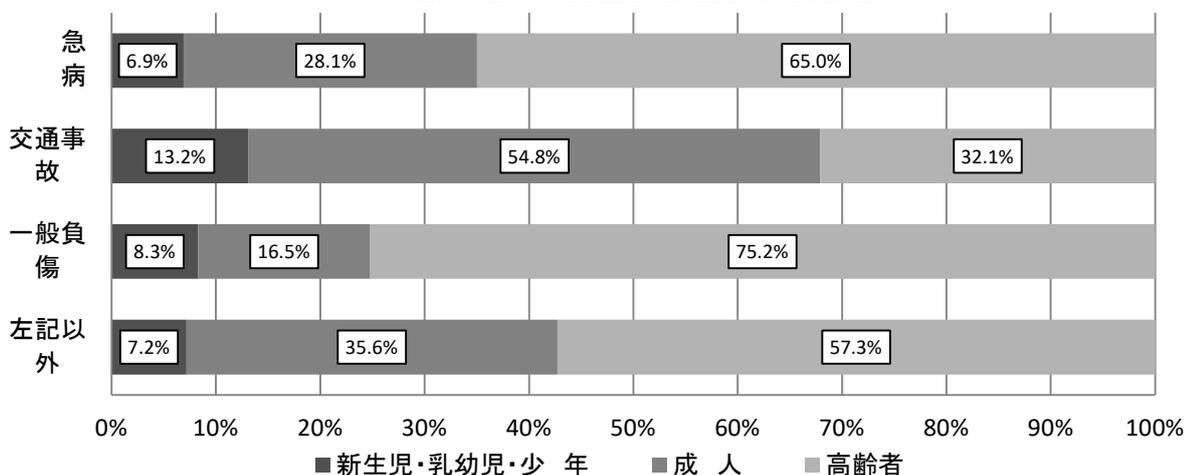
成人：満18歳以上満65歳未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

第14表 年齢区分別搬送人員割合



5 月別1日平均及び曜日別出場件数

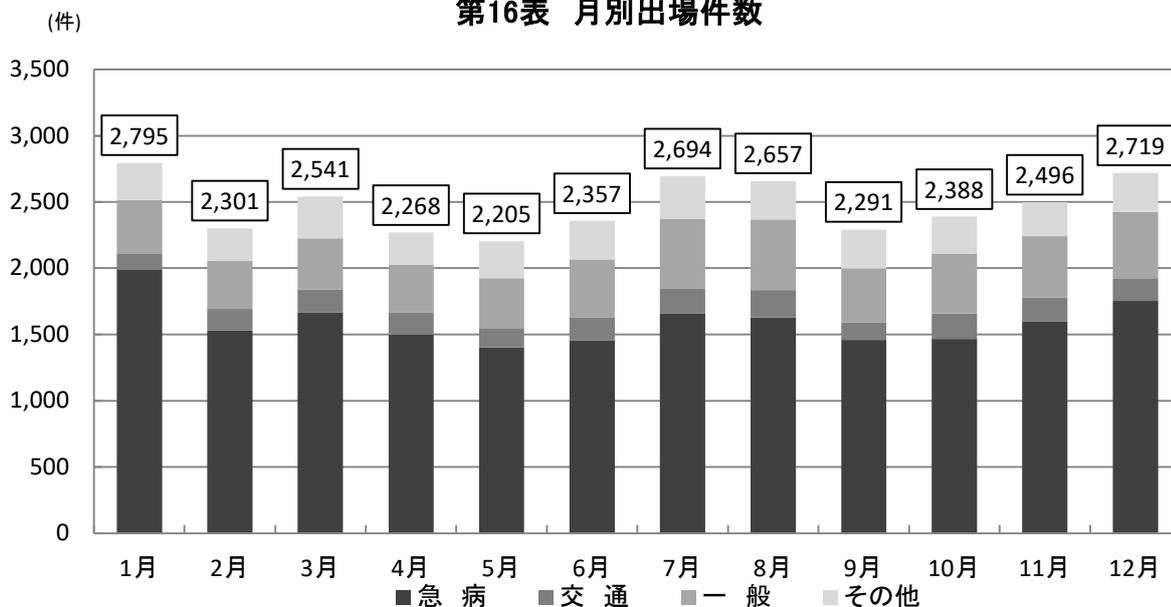
月別1日平均救急出場件数は、1月の90.2件が最も多く、5月が71.1件と最も少ない。

曜日別の救急出場件数をみると、1日平均救急出場件数は月曜日の86.3件が最も多く火曜日の76.9件が最も少ない。

第15表 月別1日平均出場件数

事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	1,992	1,531	1,663	1,499	1,400	1,455	1,655	1,629	1,459	1,468	1,596	1,753	19,100
交通	115	162	178	164	148	175	190	206	132	190	184	173	2,017
一般	409	364	385	363	377	437	526	533	406	450	461	499	5,210
上記以外	279	244	315	242	280	290	323	289	294	280	255	294	3,385
計	2,795	2,301	2,541	2,268	2,205	2,357	2,694	2,657	2,291	2,388	2,496	2,719	29,712
1日平均	90.2	82.2	82.0	75.6	71.1	78.6	86.9	85.7	76.4	77.0	83.2	87.7	81.4

第16表 月別出場件数



第17表 曜日別出場件数

区分	種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計	一日平均 出場件数
	曜	月	2,884	263	774	569	4,490
日	火	2,522	302	654	519	3,997	76.9
	水	2,779	275	752	510	4,316	81.4
	木	2,717	301	742	496	4,256	81.8
	金	2,683	362	736	522	4,303	82.8
	土	2,715	290	758	460	4,223	81.2
	日	2,800	224	794	309	4,127	79.4
	計		19,100	2,017	5,210	3,385	29,712

6 時刻別事故種別出場件数

救急出場件数を入電時刻別で見ると、9時台の2,012件が最も多く、3時台が494件と最も少ない。

第18表 時刻別事故種別出場件数

種別 時刻	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
0時	538	16	97	37	688
1時	461	14	88	35	598
2時	420	17	57	31	525
3時	399	7	66	22	494
4時	407	10	59	34	510
5時	473	19	75	37	604
6時	634	47	133	42	856
7時	785	127	214	39	1,165
8時	1,077	175	253	73	1,578
9時	1,230	140	389	253	2,012
10時	1,185	99	367	326	1,977
11時	1,018	112	365	355	1,850
12時	1,041	116	327	361	1,845
13時	1,013	129	330	225	1,697
14時	912	100	320	218	1,550
15時	893	124	278	217	1,512
16時	853	155	277	231	1,516
17時	963	170	298	223	1,654
18時	980	148	275	188	1,591
19時	917	102	287	132	1,438
20時	864	72	201	94	1,231
21時	776	50	182	83	1,091
22時	701	29	159	69	958
23時	560	39	113	60	772
計	19,100	2,017	5,210	3,385	29,712

注) 入電時刻とは通信回線等が消防機関に接続した時刻をいう。

7 現場到着所要時間別出場件数

入電から救急車が現場に到着するまでの所要時間別の出場状況は、10分未満が25,258件で全体の85.0%を占め、平均7.7分で救急車が現場に到着している。

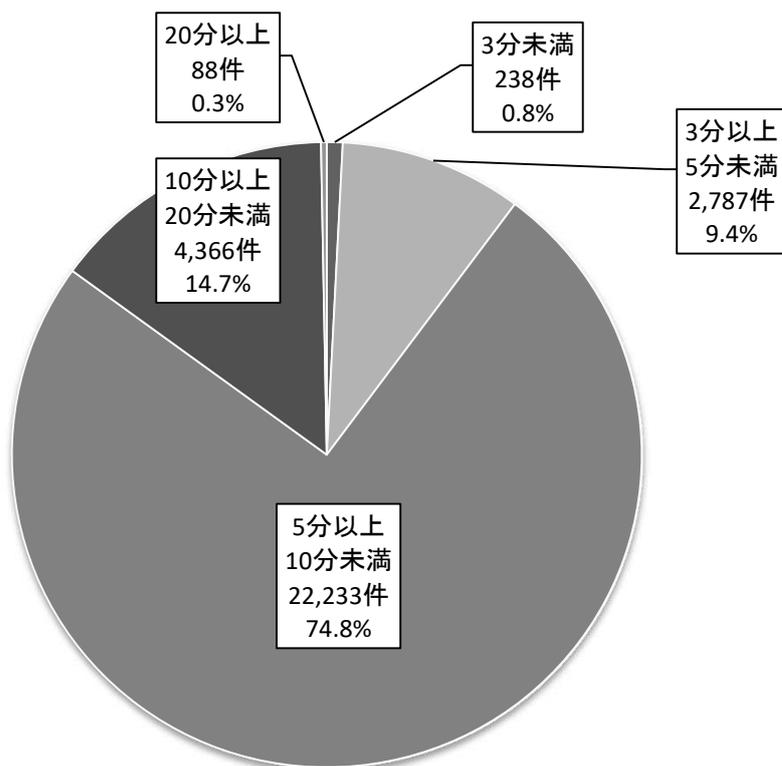
第19表 現場到着所要時間別出場件数

所要時間 事故種別	所要時間					計	平均 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	136	1,673	14,605	2,642	44	19,100	7.7
	(0.7)	(8.8)	(76.5)	(13.8)	(0.2)	(100.0)	
交通事故	18	177	1,393	424	5	2,017	8.2
	(0.9)	(8.8)	(69.1)	(21.0)	(0.2)	(100.0)	
一般負傷	36	450	3,931	778	15	5,210	7.7
	(0.7)	(8.6)	(75.5)	(14.9)	(0.3)	(100.0)	
上記以外	48	487	2,304	522	24	3,385	7.6
	(1.4)	(14.4)	(68.1)	(15.4)	(0.7)	(100.0)	
計	238	2,787	22,233	4,366	88	29,712	7.7
	(0.8)	(9.4)	(74.8)	(14.7)	(0.3)	(100.0)	

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第20表 現場到着所要時間と出場件数



8 傷病者の収容所要時間

傷病者を入電から収容先医療機関の医師に引き継ぐまでに要した時間は、最も多いのが30分以上60分未満の15,485人で全体の55.9%を占め、平均32.7分で医療機関に収容している。

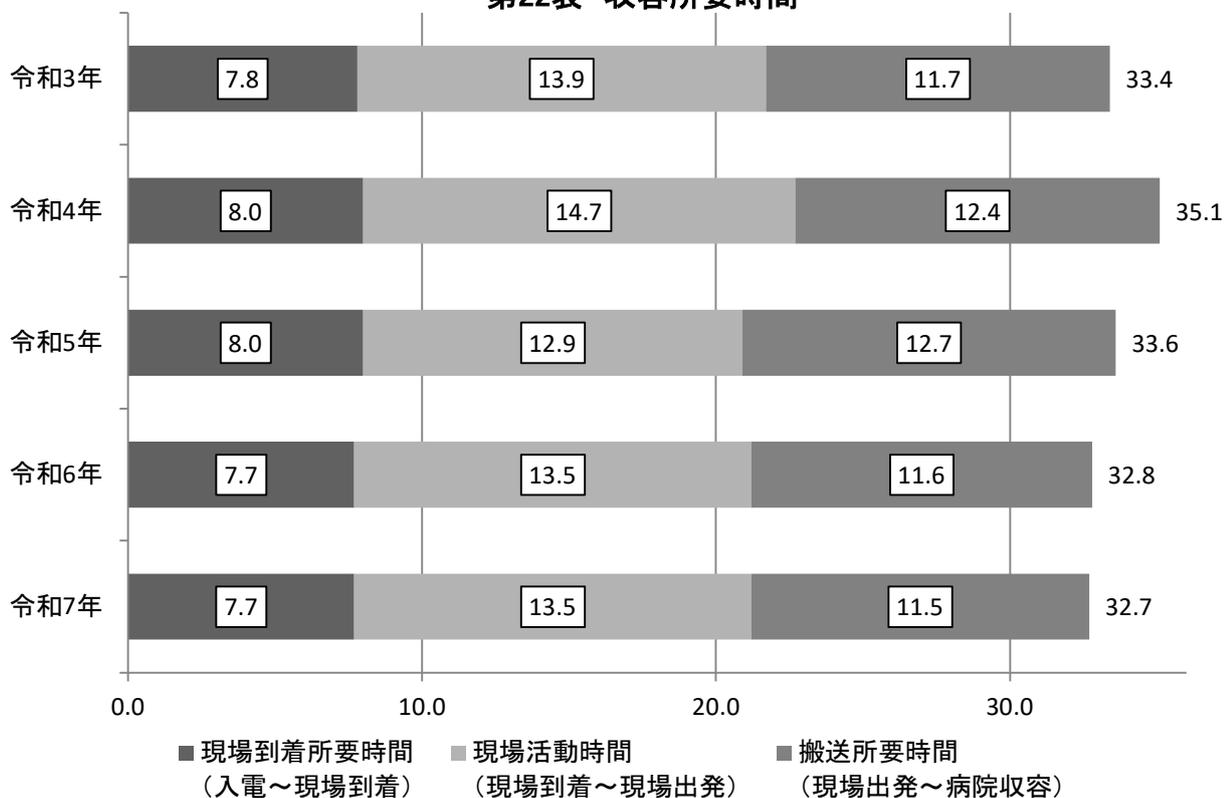
第21表 収容所要時間別事故種別搬送人員

事故種別	所要時間						計	平均 (分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上		
急病	0 (0.0)	486 (2.7)	6,747 (37.8)	10,285 (57.6)	322 (1.8)	7 (0.0)	17,847 (100.0)	33.1
交通事故	0 (0.0)	50 (2.5)	735 (36.8)	1,199 (60.0)	14 (0.7)	1 (0.1)	1,999 (100.0)	33.0
一般負傷	0 (0.0)	155 (3.1)	1,923 (38.5)	2,810 (56.3)	100 (2.0)	2 (0.0)	4,990 (100.0)	32.9
上記以外	0 (0.0)	177 (6.1)	1,471 (51.0)	1,191 (41.3)	41 (1.4)	3 (0.1)	2,883 (100.0)	30.1
計	0 (0.0)	868 (3.1)	10,876 (39.2)	15,485 (55.9)	477 (1.7)	13 (0.0)	27,719 (100.0)	32.7

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第22表 収容所要時間



9 診療科目別搬送人員

診療科目別搬送人員でみると、内科、外科、整形外科の順となっている。
内科、外科、整形外科の搬送人員で全体の73.3%を占めている。

第23表 診療科目/搬送人員別の推移

診療科目 \ 年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
合 計	27,719 (100.0)	27,099 (100.0)	26,777 (100.0)	25,746 (100.0)	21,271 (100.0)
外 科	5,158 (18.6)	5,258 (19.4)	4,785 (17.9)	4,631 (18.0)	4,076 (19.2)
内 科	12,481 (45.0)	12,442 (45.9)	12,076 (45.1)	11,958 (46.4)	9,237 (43.4)
脳神経外科	1,716 (6.2)	1,543 (5.7)	1,683 (6.3)	1,604 (6.2)	1,482 (7.0)
小児科	1,284 (4.6)	1,233 (4.5)	1,403 (5.2)	1,079 (4.2)	687 (3.2)
産婦人科	241 (0.9)	234 (0.9)	252 (0.9)	233 (0.9)	258 (1.2)
耳鼻咽喉科	390 (1.4)	402 (1.5)	391 (1.5)	316 (1.2)	327 (1.5)
整形外科	2,684 (9.7)	2,562 (9.5)	2,754 (10.3)	2,680 (10.4)	2,329 (10.9)
泌尿器科	336 (1.2)	315 (1.2)	297 (1.1)	306 (1.2)	285 (1.3)
精神科	157 (0.6)	147 (0.5)	159 (0.6)	171 (0.7)	139 (0.7)
眼 科	41 (0.1)	33 (0.1)	41 (0.2)	31 (0.1)	29 (0.1)
循環器科	1,541 (5.6)	1,469 (5.4)	1,464 (5.5)	1,296 (5.0)	1,101 (5.2)
呼吸器科	585 (2.1)	522 (1.9)	551 (2.1)	601 (2.3)	519 (2.4)
上記以外	1,105 (4.0)	939 (3.5)	921 (3.4)	840 (3.3)	802 (3.8)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

10 傷病程度別搬送人員

傷病程度別・事故種別及び年齢区分別・傷病程度別搬送人員の状況を表している。

第24表 傷病程度別・事故種別搬送人員

種別 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
急 病	82 (0.5)	1,617 (9.1)	10,172 (57.0)	5,976 (33.5)	0 (0.0)	17,847 (100.0)
交通事故	5 (0.3)	55 (2.8)	616 (30.8)	1,323 (66.2)	0 (0.0)	1,999 (100.0)
一般負傷	11 (0.2)	346 (6.9)	2,324 (46.6)	2,309 (46.3)	0 (0.0)	4,990 (100.0)
上記以外	8 (0.3)	506 (17.6)	1,854 (64.3)	515 (17.9)	0 (0.0)	2,883 (100.0)
計	106 (0.4)	2,524 (9.1)	14,966 (54.0)	10,123 (36.5)	0 (0.0)	27,719 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・傷病程度の定義

死 亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重 症 (長期入院) : 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

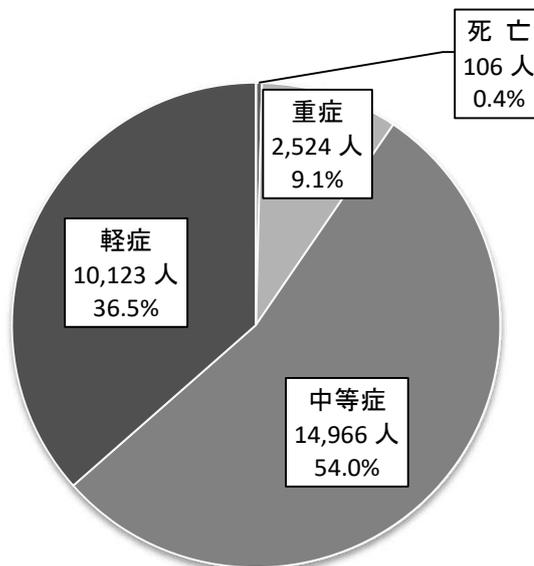
中等症 (入院診療) : 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽 症 (外来診療) : 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

第25表 傷病程度別搬送人員



第26表 年齢区分別傷病程度別搬送人員

区分 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児	0 (0.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
乳幼児	0 (0.0)	17 (1.6)	420 (38.4)	657 (60.1)	0 (0.0)	1,094 (100.0)
少 年	2 (0.2)	17 (1.7)	347 (33.9)	657 (64.2)	0 (0.0)	1,023 (100.0)
成 人	17 (0.2)	408 (5.1)	3,607 (45.4)	3,919 (49.3)	0 (0.0)	7,951 (100.0)
高齢者	87 (0.5)	2,080 (11.8)	10,591 (60.0)	4,889 (27.7)	0 (0.0)	17,647 (100.0)
65歳から74歳	10 (0.3)	372 (10.8)	1,973 (57.3)	1,089 (31.6)	0 (0.0)	3,444 (100.0)
75歳から84歳	25 (0.3)	807 (11.0)	4,279 (58.6)	2,193 (30.0)	0 (0.0)	7,304 (100.0)
85歳以上	52 (0.8)	901 (13.1)	4,339 (62.9)	1,607 (23.3)	0 (0.0)	6,899 (100.0)
計	106 (0.4)	2,524 (9.1)	14,966 (54.0)	10,123 (36.5)	0 (0.0)	27,719 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第27表 事故種別軽症者の推移

事故種別 \ 年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
軽症者数	10,123 (100.0)	10,651 (100.0)	10,683 (100.0)	10,478 (100.0)	8,213 (100.0)
急 病	5,976 (59.0)	6,248 (58.7)	6,248 (58.5)	6,280 (59.9)	4,710 (57.3)
交通事故	1,323 (13.1)	1,460 (13.7)	1,460 (13.7)	1,465 (14.0)	1,308 (15.9)
一般負傷	2,309 (22.8)	2,383 (22.4)	2,383 (22.3)	2,239 (21.4)	1,814 (22.1)
上記以外	515 (5.1)	560 (5.3)	592 (5.5)	494 (4.7)	381 (4.6)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

11 急病に係る搬送人員

急病の搬送人員は17,847人となっている。疾病分類では循環系の疾患が多く、脳疾患と心疾患等とで合わせて2,317人が搬送され、急病全体の搬送人員のうち13.0%を占めている。

傷病程度別で見ると軽症の割合は、全体で33.5%を占めている。

年齢区分別で見ると高齢者の割合が高く、全体の65.0%を占めている。

第28表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

分類項目		年齢区分					計
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
循環系	脳疾患	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.2)	186 (18.6)	814 (81.2)	1,002 (5.6)
	心疾患等	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.3)	246 (18.7)	1,065 (81.0)	1,315 (7.4)
	消化系	0 (0.0)	28 (2.1)	35 (2.6)	517 (38.4)	768 (57.0)	1,348 (7.6)
	呼吸系	0 (0.0)	43 (2.3)	58 (3.1)	381 (20.5)	1,374 (74.0)	1,856 (10.4)
	精神系	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.8)	442 (84.5)	77 (14.7)	523 (2.9)
	感覚系	0 (0.0)	24 (5.5)	59 (13.5)	192 (43.8)	163 (37.2)	438 (2.5)
	泌尿系	0 (0.0)	1 (0.2)	5 (1.0)	207 (43.0)	268 (55.7)	481 (2.7)
	新生物	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	34 (17.9)	155 (81.6)	190 (1.1)
	その他	1 (0.1)	14 (1.2)	17 (1.5)	306 (26.5)	817 (70.7)	1,155 (6.5)
	症状・徴候・診断名 不明確の状態	1 (0.0)	671 (7.0)	270 (2.8)	2,499 (26.2)	6,098 (63.9)	9,539 (53.4)
	計	2 (0.0)	781 (4.4)	455 (2.5)	5,010 (28.1)	11,599 (65.0)	17,847 (100.0)

注) 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO（世界保健機関）で定める国際疾病分類（ICD）により分類したものである。

注) 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。

注) 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。

注) 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

注) 「症状・徴候・診断名不明確の状態」とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の傷病名である。

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

注) 急病の搬送人員は、事故種別搬送人員から算出している。

第29表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 分類項目		死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
循環系	脳疾患	0 (0.0)	309 (19.1)	608 (6.0)	85 (1.4)	1,002 (5.6)
	心疾患等	6 (7.3)	244 (15.1)	770 (7.6)	295 (4.9)	1,315 (7.4)
消化系		0 (0.0)	68 (4.2)	840 (8.3)	440 (7.4)	1,348 (7.6)
呼吸系		2 (2.4)	205 (12.7)	1,199 (11.8)	450 (7.5)	1,856 (10.4)
精神系		0 (0.0)	12 (0.7)	172 (1.7)	339 (5.7)	523 (2.9)
感覚系		0 (0.0)	9 (0.6)	218 (2.1)	211 (3.5)	438 (2.5)
泌尿系		0 (0.0)	18 (1.1)	285 (2.8)	178 (3.0)	481 (2.7)
新生物		0 (0.0)	60 (3.7)	120 (1.2)	10 (0.2)	190 (1.1)
その他		1 (1.2)	51 (3.2)	692 (6.8)	411 (6.9)	1,155 (6.5)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		73 (89.0)	641 (39.6)	5,268 (51.8)	3,557 (59.5)	9,539 (53.4)
計		82 (0.5)	1,617 (9.1)	10,172 (57.0)	5,976 (33.5)	17,847 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第30表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
新生児	0 (0.0)	1 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)
乳幼児	0 (0.0)	9 (0.6)	316 (3.1)	456 (7.6)	781 (4.4)
少年	0 (0.0)	5 (0.3)	158 (1.6)	292 (4.9)	455 (2.5)
成人	10 (12.2)	235 (14.5)	2,369 (23.3)	2,396 (40.1)	5,010 (28.1)
高齢者	72 (87.8)	1,367 (84.5)	7,329 (72.1)	2,831 (47.4)	11,599 (65.0)
計	82 (0.5)	1,617 (9.1)	10,172 (57.0)	5,976 (33.5)	17,847 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置

搬送人員27,719人のうち、応急処置を実施した傷病者は27,715人である。

特定行為等（器具による気道確保、気管内チューブによる気道確保、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、ブドウ糖投与）の件数は1,001件となっている。

第31表 救急隊員の行った応急処置

処置項目	事故種別				計
	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	
応急処置対象人員	17,845人	1,998人	4,989人	2,883人	27,715人
止血	81 (0.1)	53 (0.7)	262 (1.4)	34 (0.3)	430 (0.4)
被覆	78 (0.1)	313 (3.9)	1,046 (5.5)	157 (1.4)	1,594 (1.4)
固定	68 (0.1)	539 (6.7)	386 (2.0)	119 (1.1)	1,112 (1.0)
保温	209 (0.3)	37 (0.5)	52 (0.3)	33 (0.3)	331 (0.3)
酸素吸入	3,815 (5.2)	99 (1.2)	325 (1.7)	722 (6.4)	4,961 (4.4)
人工呼吸	12 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.0)	16 (0.0)
胸骨圧迫	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
心肺蘇生	464 (0.6)	11 (0.1)	63 (0.3)	23 (0.2)	561 (0.5)
在宅療法	544 (0.7)	3 (0.0)	52 (0.3)	41 (0.4)	640 (0.6)
血圧測定	16,930 (22.9)	1,958 (24.3)	4,785 (25.1)	2,818 (24.9)	26,491 (23.6)
心音・呼吸音聴取	4,091 (5.5)	672 (8.3)	660 (3.5)	328 (2.9)	5,751 (5.1)
血中酸素飽和度測定	17,424 (23.6)	1,983 (24.6)	4,924 (25.8)	2,856 (25.3)	27,187 (24.2)
心電図測定	12,757 (17.3)	542 (6.7)	1,826 (9.6)	1,502 (13.3)	16,627 (14.8)
気道確保	622 (0.8)	18 (0.2)	83 (0.4)	34 (0.3)	757 (0.7)
用手	322	12	46	25	405
経鼻エアウェイ	2	0	1	0	3
喉頭鏡・鉗子等	3	0	3	0	6
ラリソゲアルマスク等	291	6	26	9	332
気管内チューブ	4	0	7	0	11
ビデオ喉頭鏡	4	0	6	0	10
除細動	40 (0.1)	1 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)	43 (0.0)
静脈路確保	266 (0.4)	10 (0.1)	37 (0.2)	11 (0.1)	324 (0.3)
心肺機能停止前	67	6	17	5	95
心肺機能停止後	189	4	20	6	219
ブドウ糖投与	10	0	0	0	10
薬剤投与	88 (0.1)	2 (0.0)	11 (0.1)	0 (0.0)	101 (0.1)
血糖測定	168 (0.2)	1 (0.0)	8 (0.0)	3 (0.0)	180 (0.2)
ブドウ糖投与	10 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (0.0)
その他	16,219 (22.0)	1,814 (22.5)	4,543 (23.8)	2,623 (23.2)	25,199 (22.4)
計	73,887 (100.0)	8,057 (100.0)	19,065 (100.0)	11,307 (100.0)	112,316 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第32表 救急救命処置実施数の推移

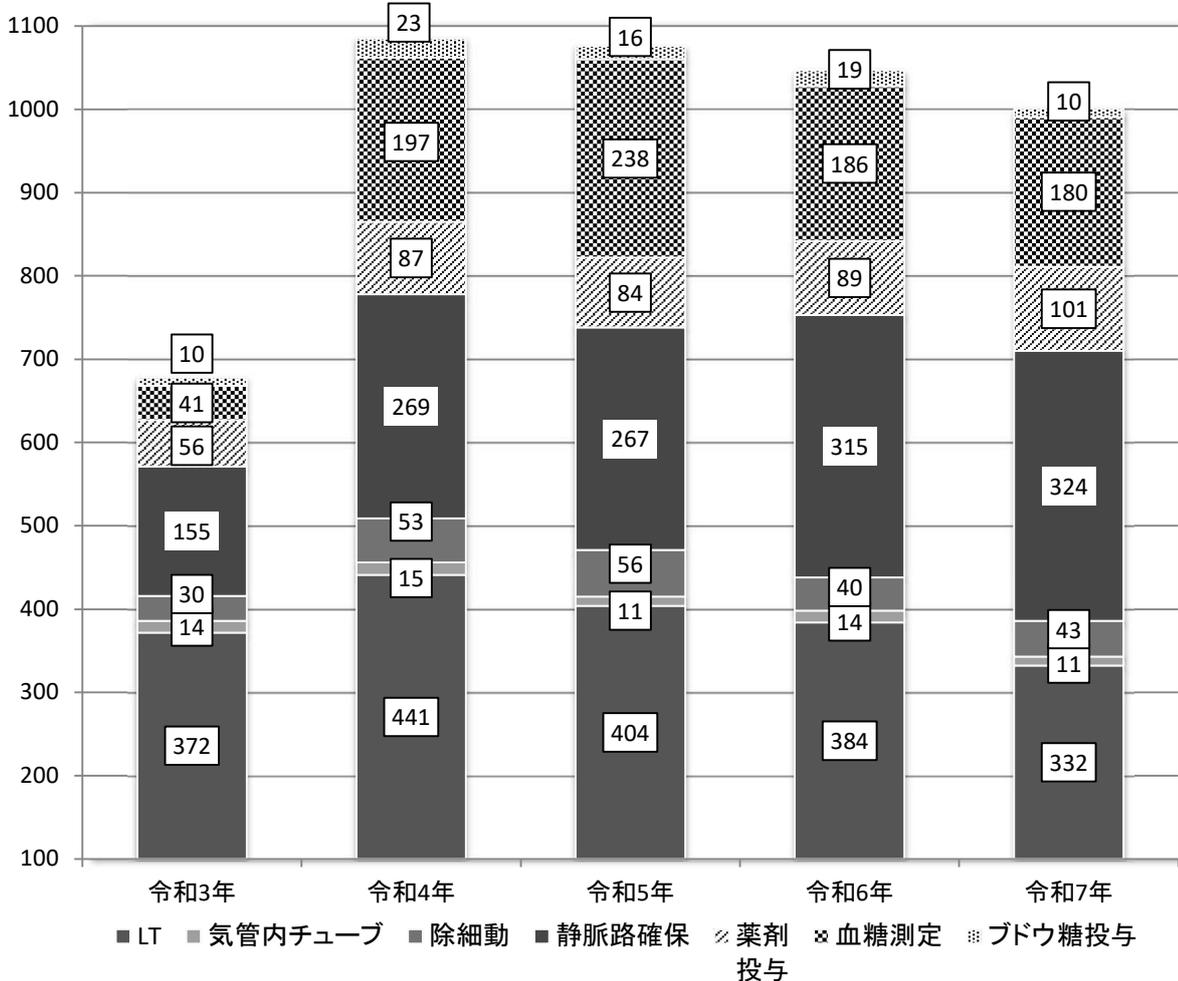
年	処置内容	LT	気管内チューブ	除細動	静脈路確保	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	合計	
	令和3年		372	14 (8)	30	155 (29)	56	41	10	678
処置実績	令和4年		441	15 (9)	53	269 (40)	87	197	23	1,085
	令和5年		404	11 (6)	56	267 (47)	84	238	16	1,076
	令和6年		384	14 (6)	40	315 (108)	89	186	19	1,047
	令和7年		332	11 (10)	43	324 (105)	101	180	10	1,001

注) 気管内チューブの () 内はビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管を示す。

注) 処置内容のLTは、ラリングアルチューブを示す。

注) 静脈路確保の () 内はCPA前、ブドウ糖静脈路確保を示す。

第33表 救急救命処置実施数の推移



- ※ 平成15年4月 除細動 (医師の具体的指示は不要)
- ※ 平成16年8月 除細動 (救急救命士以外の救急隊員も実施可能)
- ※ 平成16年7月 気管内チューブによる気道確保
- ※ 平成18年4月 薬剤投与 (アドレナリン投与)
- ※ 平成23年8月 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管
- ※ 平成26年4月 新処置 (血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、CPA前静脈路確保と輸液)

2 ウツタイン様式調査

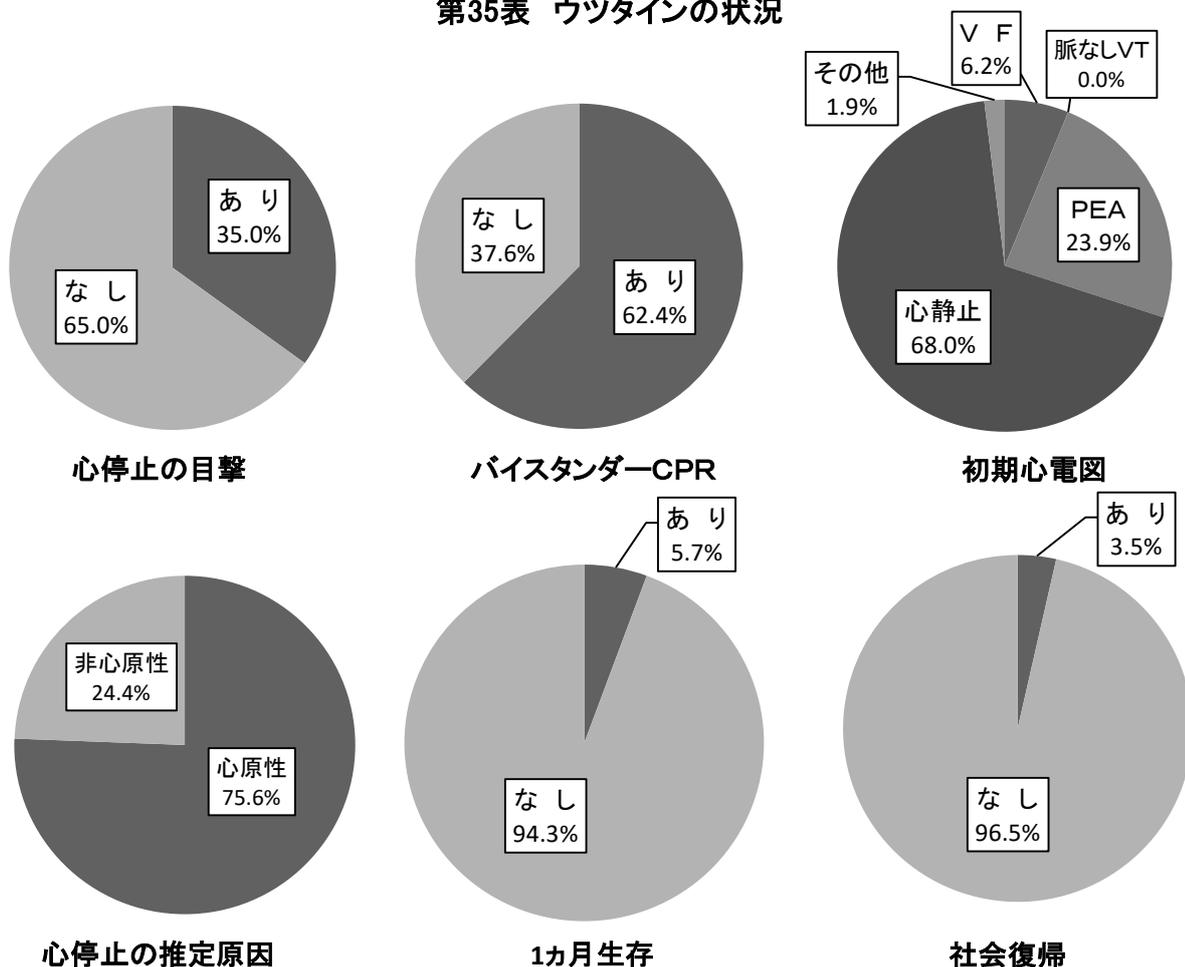
令和7年中において、救急隊が搬送したウツタイン様式調査の対象となる566人のうち、傷病者の1ヵ月生存は32人、社会復帰は20人であった。

第34表 ウツタイン様式調査

対象人数 566人

		令和7年		令和6年		対前年比	
心停止の目撃	あり	198	35.0%	212	35.2%	-14	-6.6%
	なし	368	65.0%	390	64.8%	-22	-5.6%
バイスタンダーCPR	あり	353	62.4%	383	63.6%	-30	-7.8%
	なし	213	37.6%	219	36.4%	-6	-2.7%
初期心電図	V F	35	6.2%	35	5.8%	0	0.0%
	脈なしVT	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	PEA	135	23.9%	135	22.4%	0	0.0%
	心静止	385	68.0%	424	70.4%	-39	-9.2%
	その他	11	1.9%	8	1.3%	3	37.5%
心停止の推定原因	心原性	428	75.6%	463	76.9%	-35	-7.6%
	非心原性	138	24.4%	139	23.1%	-1	-0.7%
1ヵ月生存	あり	32	5.7%	33	5.5%	-1	-3.0%
	なし	534	94.3%	569	94.5%	-35	-6.2%
社会復帰	あり	20	3.5%	20	3.3%	0	0.0%
	なし	546	96.5%	582	96.7%	-36	-6.2%

第35表 ウツタインの状況



第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員

医療機関に搬送した27,719人のうち救急告示医療機関への搬送人員は27,454人（99.0%）で救急告示医療機関以外への搬送人員は、265人（1.0%）である。

第36表 医療機関別搬送人員

区分 告示別	医 療 機 関						構 成 比	そ の 他 の 場 所			合 計
	国 立	公 立	公 病 院	私 病 院	私 的 診 療 所	計		接 骨 院 等	そ の 他 の 場 所	計	
救急告示	1,657 (1)	9,829 (685)	4,641 (1,239)	11,296 (1,989)	31 (2)	27,454 (3,916)	99.0%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	27,454 (3,916)
非告示	0 (0)	0 (0)	0 (0)	126 (26)	139 (3)	265 (29)	1.0%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	265 (29)
計	1,657 (1)	9,829 (685)	4,641 (1,239)	11,422 (2,015)	170 (5)	27,719 (3,945)	100.0%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	27,719 (3,945)

注) () 内は管外の医療機関へ搬送された人員である。

2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

管内の医療機関に85.8%搬送されている。

第37表 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

年	区分 搬送人員	搬 送 先 医 療 機 関						管 外 搬送率
		管 内		管 外				
				県 内		県 外		
令和3年	21,271	18,935	89.0%	2,318	10.9%	18	0.1%	11.0%
令和4年	25,746	22,903	89.0%	2,821	11.0%	22	0.1%	11.0%
令和5年	26,777	23,915	89.3%	2,840	10.6%	22	0.1%	10.7%
令和6年	27,099	23,232	85.7%	3,848	14.2%	19	0.1%	14.3%
令和7年	27,718	23,774	85.8%	3,917	14.1%	27	0.1%	14.2%

3 転送の状況

「転送」とは、何らかの理由により、初回の搬送先医療機関で収容できなかったため、さらに当該医療機関等以外の医療機関へ搬送した場合をいう。

搬送人員27,719人の転送回数別搬送人員の状況は、転送なく収容された傷病者は、27,708人(99.96%)であり、残りの11人(0.04%)は表39の理由により転送されている。

第38表 転送回数別搬送人員(事故種別)

事故種別	転送の有無 及び回数	転送なし (A)	転送回数					小計 (B)	計 (C) (A) + (B)	転送率 (B)/(C) ×100
			1回	2回	3回	4回	5回 以上			
急病		17,842	5	0	0	0	0	5	17,847	0.03%
交通事故		1,998	1	0	0	0	0	1	1,999	0.05%
一般負傷		4,986	4	0	0	0	0	4	4,990	0.08%
上記以外		2,882	1	0	0	0	0	1	2,883	0.03%
計		27,708	11	0	0	0	0	11	27,719	0.04%

第39表 事故種別による転送理由

転送となった11件について、初回の医療機関に収容できなかった理由は、処置困難が多く、全体の72.7%を占めている。

種別 理由	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
ベッド満床	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)
専門外	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (9.1)
医師不在	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
手術中	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)
処置困難	3 (60.0)	1 (100.0)	3 (75.0)	1 (100.0)	8 (72.7)
理由不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	5 (100.0)	1 (100.0)	4 (100.0)	1 (100.0)	11 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況

応急手当の普及啓発活動として、事業所や各種団体を対象とした救命講習のほか、住民を対象とする日曜救命講習及び夜間救命講習を実施している。さらに、公立中学校及び希望する私立中学校の生徒を対象に「命の教育」として短時間救命講習などを開催している。

これらの取り組みで、847回の救命講習を実施し、18,976人が受講した。

第40表 講習別救命講習実施人員

種別 区分	上級 救命講習	普通 救命講習 I	普通 救命講習 II	普通 救命講習 III	ステップアップ 講習	救命入門 コース	救命講習 以外講習	合 計
実施回数	8	135	9	46	192	188	269	847
受講者数	143	1,347	191	466	2,327	3,616	10,886	18,976

第41表 受講対象者別救命講習受講人数

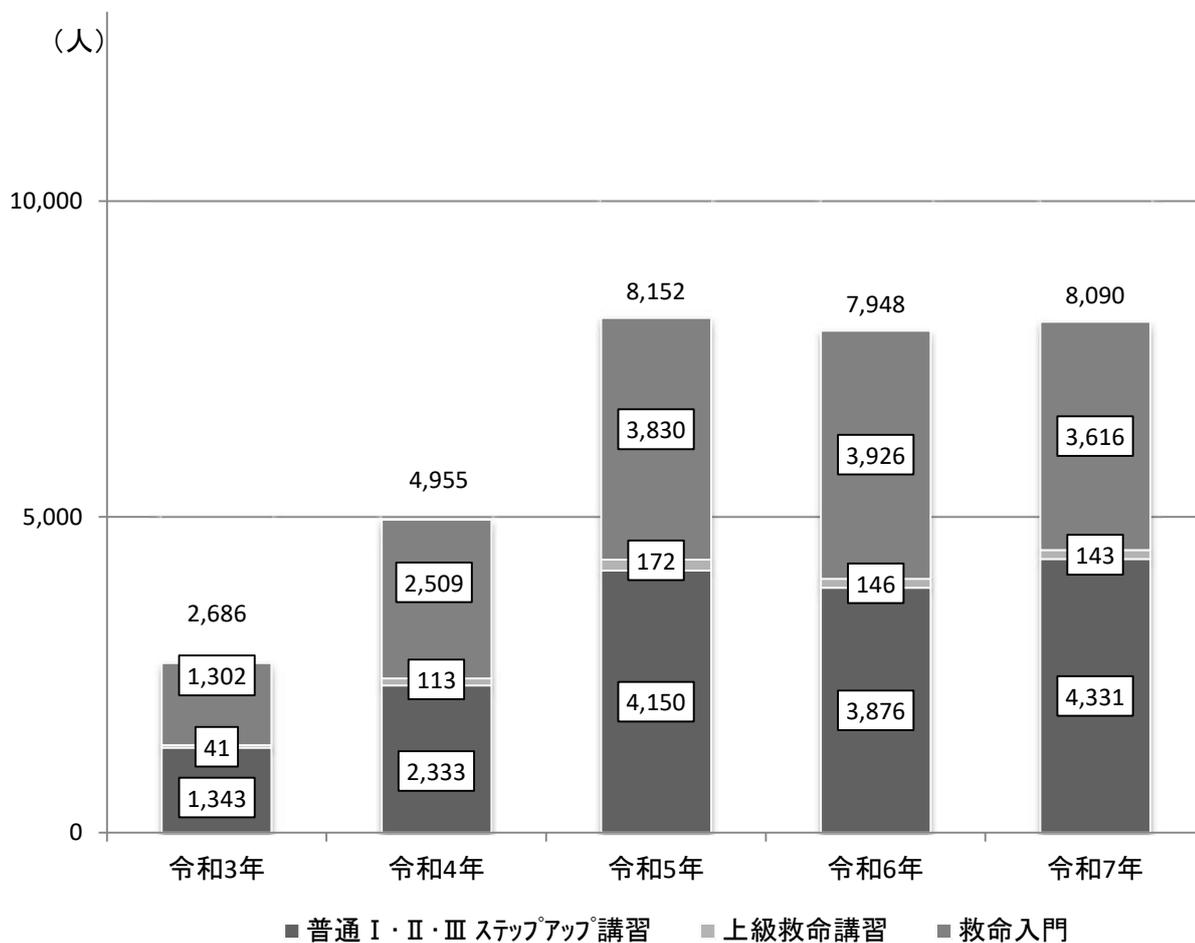
年 団体	事業所	市町職員	自治会等	女性防火	消防団	学校等	日曜救命	夜間救命	その他	合 計
令和3年	663	252	204	158	14	4,385	167	12	296	6,151
令和4年	1,775	237	479	367	164	8,608	287	37	1,031	12,985
令和5年	3,132	517	809	691	438	5,366	522	58	5,563	17,096
令和6年	3,250	608	447	534	269	4,967	607	57	5,415	16,154
令和7年	3,886	418	1,234	415	363	5,662	636	64	6,298	18,976

2 救命講習の受講人員の推移

第42表 救命講習の受講人員の推移

種別 年	普通Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ステップアップ講習 A	上級救命講習 B	小計 C=A+B	救命入門 コース D	合計 C+D
令和3年	1,343	41	1,384	1,302	2,686
令和4年	2,333	113	2,446	2,509	4,955
令和5年	4,150	172	4,322	3,830	8,152
令和6年	3,876	146	4,022	3,926	7,948
令和7年	4,331	143	4,474	3,616	8,090

第43表 救命講習の受講人数



令和 7 年救急業務の年表

	記 事
1月20日 ～ 1月22日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜市民病院：篠田宗幸
1月20日 ～ 1月23日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜赤十字病院：間狭大将
2月 3日 ～ 3月10日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：福田兼司
2月10日	岐阜県MC協議会 リスク管理委員会（オンライン） 委 員：安江隆晃
2月13日	岐阜市救急業務対策協議会 開催場所：岐阜南消防署
2月16日	令和6年度全国消防長会東海支部救急委員会 開催場所：愛知県名古屋市 アイリス愛知
2月20日	救急救命士による薬剤投与修了実習 岐阜大学医学部：大坪和樹、安井浩人
2月20日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 岐阜大学医学部：篠田宗幸、間狭大将
2月22日	岐阜市医師会主催・岐阜市後援 市民公開講座 開催場所：グランヴェール岐山
2月26日	岐阜市民病院地域支援委員会 開催場所：岐阜市民病院4階
2月27日	ぎふ清流ハーフマラソンメディカル委員会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：澤田知孝
3月 3日	岐阜県MC協議会 令和6年度第4回岐阜県MC協議会（オンライン） 委 員：根尾惣磨
3月 9日	第48回救急救命士国家試験 長野旭宏、青木翔大、梶村太紀、高橋佑騎、山田翔大、田中大輝
3月12日	岐阜県MC協議会 令和6年度第1回プロトコール検討部会（オンライン） 部 会 員：澤田知孝
4月 3日 ～ 9月30日	第68期救急救命東京研修所派遣 阿部了大、藤澤昂平
4月15日、16日	救急係長会議（オンライン）
4月27日	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン2025
4月28日～	令和7年度マイナ救急実証事業（本部、中、南、北、瑞穂、山県、本巣）
5月 9日	令和7年度岐阜県消防長会救急課長会議 開催場所 大垣市 大垣スイトピアセンター

	記 事
5月12日 ～ 5月14日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：佐藤悠太 岐北厚生病院：田中佑典
5月12日 ～ 5月16日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜赤十字病院：加藤智哉 朝日大学病院：岩田貴斗 岐阜市民病院：熊崎丈一郎
5月19日 ～ 5月21日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：岡部真歩 岐阜市民病院：片桐将
5月26日 ～ 6月 2日	静脈路確保に係る病院実習 朝日大学病院：馬場良樹
5月26日 ～ 6月20日	救急救命士の就業前病院実習 岐阜県総合医療センター：山田翔大 岐阜県総合医療センター：高橋佑騎 岐阜市民病院：田中大貴 岐阜市民病院：青木翔大 岐北厚生病院：長野旭宏 岐阜赤十字病院：梶村太紀
6月 4日	ぎふ清流ハーフマラソンメディカル委員会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：澤田知孝
6月 9日 ～ 7月 9日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜市民病院：吉田侑佑
6月19日 ～ 6月20日	第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会 開催場所：横浜市 パシフィコ横浜
6月28日	岐阜県救急医療研究会役員会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：留田隆、安江隆晃 岐阜県救急医療研究会総会・学術集会 開催場所：岐阜大学医学部
7月 1日 ～ 7月 2日	第23期処置拡大二行為養成研修 開催場所：岐阜大学医学部 受 講 者：片桐将、佐藤悠太、田中佑典、加藤智哉
7月 1日 ～ 7月29日	救急救命士の就業前病院実習 朝日大学病院：山本萌太
7月 3日	岐阜県MC協議会 令和7年度第1回救急隊員教育部会（書面会議） 委 員：安江隆晃

	記 事
7月 6日	応急手当普及員再講習（計3日間）
7月12日	開催場所：南消防署3階大会議室
7月23日	
7月15日	岐阜県MC協議会 令和7年度第1回岐阜県MC協議会（書面会議） 委 員：留田隆、安江隆晃
7月22日	岐阜県MC協議会 令和7年度第2回救急隊員教育部会（オンライン） 委 員：安江隆晃
7月22日	岐阜県MC協議会 令和7年度第1回プロトコール検討部会（オンライン） 部 会 員：澤田知孝
7月23日	岐阜県MC協議会 令和7年度第1回安全管理部会（オンライン） 部 会 員：大野勝昌
7月24日	岐阜県MC協議会 令和7年度第1回事後検証部会（オンライン） 部 会 員：澤田知孝
8月 4日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 8月 9日	朝日大学病院：林利宏
8月 5日	患者等搬送乗務員適任者講習
～ 8月 7日	開催場所：本部6階大会議室
8月 8日	患者等搬送乗務員定期講習
	開催場所：本部6階大会議室
8月18日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 8月19日	岐阜市民病院：岡本直人 朝日大学病院：森大輔
8月26日	岐阜県MC協議会 令和7年度第2回岐阜県MC協議会（オンライン） 委 員：留田隆、安江隆晃
8月26日	第69期救急救命東京研修所派遣
～ 3月9日	今井慎、中島優斗、中村友哉
9月 6日	応急手当普及員講習（計3日間）
9月13日	開催場所：南消防署3階大会議室
9月20日	
9月10日	救急救命士による薬剤投与修了実習 岐阜大学医学部：田中大貴
	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 岐阜大学医学部：岡本直人
10月 1日～	令和7年度マイナ救急実証事業（消防本部管内全救急隊で開始）
10月 3日	岐阜県MC協議会 令和7年度第1回プロトコール改訂に係るWG 開催場所：岐阜県庁18階会議室 グループ員：小林大介
10月 8日	令和7年度第1回岐阜県MC協議会岐阜支部会議（オンライン） 委 員：安江隆晃、澤田知孝

	記 事
10月15日	救急救命士による薬剤投与修了実習 岐阜大学医学部：山田翔大、長野旭宏
10月17日	岐阜県MC協議会 令和7年度第3回救急隊員教育部会（オンライン） 委 員：安江隆晃
10月24日	第45回救急コ・メディカルセミナー 開催場所：名古屋青少年文化センター
11月4日 ～ 11月6日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜赤十字病院：森一樹
11月11日	令和7年度岐阜県消防長会第2回救急課長会議 開催場所：中津川市 中津川市役所会議棟 第20回岐阜県救急隊員技術発表会 開催場所：中津川市 中津川市文化会館
11月12日	救急救命士による薬剤投与修了実習 岐阜大学医学部：青木翔大 救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 岐阜大学医学部：森大輔
11月28日 ～ 11月29日	第28回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会 開催場所：金沢市 金沢市文化ホール 発 表 者：大野謙二郎
12月 9日、10日	第24期処置拡大二行為養成研修 開催場所：岐阜大学医学部 受 講 者：岩田貴斗、馬場良樹、岡部真歩、熊崎丈一郎
12月14日	令和7年度MCに係る研修会（オンライン）
12月16日	岐阜県MC協議会 令和7年度第3回プロトコール改訂に係るWG（オンライン） グループ員：小林大介
12月17日	岐阜県MC協議会 リスク管理委員会（オンライン） 委 員：澤田知孝
12月17日	救急救命士による薬剤投与修了実習 岐阜大学医学部：高橋佑騎